

付属機関等の会議結果の公開 様式

会 議 名	平成27年第3回愛荘町みらい創生会議 会議結果（概要）
開 催 日 時	平成27年11月12日（木） 9:30~12:00
開 催 場 所	愛荘町役場愛知川庁舎3階第1委員会室
出 席 者	西村正司、秦憲志、宇山弘子、田中伸幸、長瀬昭一、塚越秀治、長崎弘法、北村由合美、大橋通孝、正木玲央奈、嶋中まさ子、野村仁美
欠 席 者	西澤基治、兼房貢司
事 務 局	林総合政策部長、上林総合政策課長、橋本主査
傍 聴 者	なし
審 議 内 容	<p>○愛荘町みらい創生戦略人口ビジョン編の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在と2040年及び2060年の人口ピラミッドの比較</li> <li>・当町の将来目標人口の設定</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">2030年→合計特殊出生率 2.02</p> <p style="margin-left: 40px;">2040年以降→合計特殊出生率 2.07</p> <p style="margin-left: 40px;">※目標人口 20,000人</p> <p>○愛荘町みらい創生戦略総合戦略編（素案）の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局案の提示と意見交換</li> </ul> <p>○次回開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 平成27年12月21日（月）午後3時00分から</li> </ul>
問い合わせ先	総合政策課 担当 上林、橋本 連絡先 0749-42-7684

平成27年度 第3回 愛荘町みらい創生会議  
議 事 録

1. 日 時：平成27年11月12日（木） 9:30～12:00

2. 場 所：愛荘町役場 愛知川庁舎 3階 第1委員会室

3. 出席者：

【委員】

	区分	所属	氏名（敬称略）	備考	
会長	産業	愛荘町商工会	西村 正司	会長	
	観光	愛荘町秦荘観光協会	宇山 弘子	施設長	
	官公	滋賀県		オブザーバー	—
	官公	地方創生コンシェルジュ		オブザーバー	—
	官公	彦根公共職業安定所	長崎 弘法	所長	
副会長	学識	滋賀県立大学	秦 憲志	専門調査研究員	
	金融	(株) 滋賀銀行愛知川支店	田中 伸幸	愛荘町金融協議会	
	金融	日本政策金融公庫彦根支店	長瀬 昭一	支店長	
	労働	高田労働組合 本部書記長	兼房 貢司	彦根地区労働者福祉協会	欠席
	労働	彦根青年会議所	塚越 秀治	まち活性化室長	
	言論	秦荘有線放送農業協同組合	北村 百合美		
	一般住民	愛荘町区長会代表	西澤 基治	愛荘町愛知川観光協会会長	欠席
	一般住民	公募委員	大橋 通孝		
	一般市民	公募委員	正木 玲央奈		
	一般市民	公募委員	嶋中 まさ子		
	一般市民	公募委員	野村 仁美		
事務局		愛荘町長	宇野 一雄	庁内推進本部長	欠席
		愛荘町副町長	中村 守	庁内推進副本部長	欠席
		総合政策部長	林 定信		
		総合政策課長	上林 市治		
		総合政策課 担当	橋本 庸介		
		株式会社パスコ	高畠 陽平		
			山本 祥太		

#### 4. 資料：

- ・会議次第
- ・愛荘町みらい創生戦略 人口ビジョン編（素案）
- ・愛荘町みらい創生戦略 総合戦略編（素案）
- ・「やさしい日本語」研修会 ※嶋中委員提供

#### 5. 議事：

1. あいさつ
2. 愛荘町みらい創生会議 総合戦略編（素案）について
3. その他

#### 6. 議事要旨

##### （1）開会、あいさつ

事務局：委員の皆様には、大変お忙しいお集まりをいただきましてありがとうございます。

本日は高田労働組合の兼房委員から欠席の連絡をいただいております。

それでは、開会にあたりまして西村会長からごあいさつをお願いいたします。

西村会長：皆さん、おはようございます。こんなにいい天気で、こういう素晴らしい場所で会議ができること、大変うれしく思います。

創生会議第3回となり、そろそろ本題になってくると思います。皆さんから貴重な意見をいただいて活性化できますよう、よろしくお願ひしたいと思います。

塚越委員には、新しく彦根市から来ていただきまして誠にありがとうございます。年配の中で40代ということで、違う視点からのご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。簡単ではございますが、ごあいさつに代えさせていただきます。

事務局：続きまして、総合政策部長の林からご挨拶を申し上げます。

林部長：おはようございます。第3回目の創生会議になります。

すでにご存じのとおり、総合戦略につきましては各自治体ですでに発表がされつつあります。その自治体の総合戦略を見ていると、やはり人口増をうたっているような状況かと思えます。これだけでは地方同士の人口の争奪戦に終わってしまうようなきらいもございます。観光都市や地域の個性を打ち出して勝ち抜く自治体もあるかもしれませんが、多くが負け組になるような不毛な戦いになるきらいもあります。

愛荘町としましては、質を大切に、質で勝てる目標を立てて検討してまいりたいと思ひます。地域が持つ個性や、その可能性を追求してまいりたいと考えています。

本日の会議におきましては、前回から一歩進み、これから重点施策として取り組んでいきたいものに絞ってご検討していただきたいと思ひます。

すでに今日までに取り組んでいるもの、目標としていますが十分に取り組めていないもの、今回の戦略の中で内容をさらにリメイクしていききたいもの等、挙げさせていただきますので、忌憚のない意見を賜りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局：今回、初めて、彦根青年会議所から塚越さまにお越しいただきましたので、自己紹介をお願いしたいと思ひます。

塚越委員：おはようございます。今年度より公益社団法人彦根青年会議所まち活性室室長を仰せつかっております塚越と申します。よろしくお願ひいたします。

私事ですが、観光協会の西澤さんのところでお世話になっておりまして、愛荘町はまったく

知らない町ではございませんので、微力ながらお力になりたいと思っています。

事務局：ご紹介がありましたように、西澤委員と同業ということで、過去2回分についてお話をお聞きしているとのことでしたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日の配布資料ですが、次第、カラー版の人口ビジョン編の抜粋、みらい創生戦略の総合戦略編（素案）ということでお示しをしております。ご確認、よろしくお願ひいたします。

これまで、第1回の会議では人口ビジョンの動向、町民アンケートの結果、第2回目の会議では人口ビジョン素案及びSWOT分析による戦略の課題について議論をいただきました。これまでの経過を踏まえて、人口目標の考え方、総合戦略（素案）の方向性などについて議論をいただくことにしております。

会議の進行につきましては、設置要綱第6条の規定により西村会長にお願ひしたいと思ひます。

西村会長：それでは進めさせていただきます。

2番目の愛荘町みらい創生戦略、総合戦略編（素案）について、事務局から説明をお願ひします。

## （2）愛荘町みらい創生戦略 総合戦略編（素案）について

事務局：総合戦略編（素案）に入る前に、第2回目のみらい創生会議で説明した人口ビジョン編の振り返りをさせていただきたいと思ひますので、人口ビジョン編抜粋という資料をご覧ください。

（事務局より資料説明）

事務局：続きまして、総合戦略編（素案）についてご説明申し上げます。

（事務局より資料説明）

西村会長：説明がありました総合戦略の目標及び重点施策についてご意見をお聞かせいただきたいと思ひます。あまりにも多すぎるので分野を区切って、最初に「しごと」の分野からご意見をお聞かせいただければと思ひます。

しごとについて1～3と基本方針が書かれており、それについて施策の素案を作成しています。これをどう具体化してよいものをつくっていくか。皆さんからご意見をいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

長瀬委員：新産業の創出、地元産業の交流・連携・支援とあります。今、国は開業率10%を目指していますが、実際は廃業が増えているという現状の中で、廃業が増えているのは後継者がいないのが大きな原因です。後継者がいない中で地元産業の交流・連携、異業種交流となっていますが、事業継承を進めていく必要があり、廃業を覚悟している人の事業を引き継いでいく人を支援していくことも必要ではないでしょうか。

私どもの融資制度の中にも事業継承資金があります。会社であれば、外部の人が社長になるために会社の株式を買い取る資金があります。交流の中で、廃業を考えている人、事業をしたいという人もいます。そういったことも含めて、事業継承に取り組んでいく中で補助や支援が必要で、予算の問題もあるので金額は言えませんが、そういった促進も必要になると思ひます。

地産地消の推進は、生産意欲の向上のためとの説明がありました。SWOT分析では愛荘町にはブランドがないということでした。ブランドづくりが盛り込まれていません。地域資源を

活用して産学連携で新たな特産品を開発していくことも、生産者の生産意欲を向上させていくという中では必要な政策になります。難しいところもありますが、創生の中で開発費用の援助や支援も必要になると思います。

観光ツアーは、ぜひ観光の目玉として進めて予算を取るべきだと思います。観光のツアーは、工場見学、地場産業、愛荘町農村生活体験とセットで打っていく必要があります。日帰りツアーになるかもしれませんが、泊まってもらうことも必要で、農業体験とセットにすれば民泊発生する可能性もあります。泊まってもらうためには組み合わせて目玉として打っていくべきだと思います。

若者の雇用機会の創出で地元高校の若者を雇用とありますが、自治体によっては創業支援の中で、地元の若者を雇用した場合は、例えば1人当たり2万円、2年間というように上限を決めて市町村が補助を行っているケースもあります。言葉だけになってしまう可能性もあるので、若者を雇用を促進していくためには事業者への支援やのメリットが必要だと思います。

西村会長：ほかにございませんか。

長崎委員：新産業創出で、U I J ターン若者の雇用創出、商工会と連携してという話がありましたが、U I J ターンになると町単独では難しいような気がします。湖東圏域でされているので、そういうところと連携して東京や大阪に行ってこちらに呼び込んでくる。そういった事業を考えてはどうかと思います。

U I J ターン者を受け入れた事業所へ補助金を出すという提案もありましたので、そういうものを利用するのもいいと思います。滋賀県では今年度から「滋賀発産業・雇用創造推進プロジェクト事業」を実施しています。運営的にはモノづくりと環境分野だけですが、加盟しているところもあるので、そういうものを利用するのもいいと思います。

厚生労働省でも、滋賀県の場合、県がこのプロジェクトを実施したことにより、事業所の新設や工場の改修などに対して助成金制度が受けられるようになりました。求人倍率などの関係で、彦根管内の地域は昨年9月30日をもって補助金制度はなくなりましたが、滋賀県がプロジェクトを開始したことにより滋賀県全域が対象となります。そういうものを利用するのもいいと思います。

基本目標の説明文には、地域における女性の活躍を推進しますとありますが、「しごと」の中にはその項目が盛り込まれていません。下の「ひと」のところに、女性が働きやすい環境づくりとありますが、ここに載せるのがよいのか。女性の活躍推進法が昨年国会で成立したので周知はしていますが、そこでできるものがあるのではないか。法律の内容は詳しく知りませんが、若者雇用促進法が同時に成立していますので、若者や女性を雇い入れるために改革をすべきとして認定制度ができてきているようなので、対象地域からも出てきていただきたいと思っています。

教えてほしいのは、地元高校就職支援プロジェクトのところで、愛知高と愛知高等養護学校があり、高等養護学校については来年3月に初めての卒業生が出るということで、相談もさせてもらっていますが、商工会の会員との間で協定があるのですか。

事務局：愛知高等と愛荘町商工会と行政との三者協定で、高校を卒業された方を商工会員の町内の事業所に雇用していただいたという経緯が過去にありました。その制度を再検討して、就職支援プロジェクトとして推進していけないかと考えています。

長崎委員：過去にあったというのは、今現在はないのですか。

西村会長：昨年度も愛荘町の事業所に6、7名の高校生が就職しました。優先的に地元企業が高校に対

して就職の募集をして希望する高校生を採用するという形です。

長崎委員：高校の場合は制約があるので、優先的雇用という形にはならないのではないかと。高校の中には5年生の高校もあります。愛知高とこれから決めていけばいいと思いますが、取り決めておくべきことがあるので注意が必要です。そこはまた相談させていただきます。

長瀬委員：創業のところで、町には説明したのですが、来年度、東京で「U I J ターン創業セミナー」を開催します。東京、大阪、仙台、福岡も入るかもしれませんが、その地域の本部・支店が一体となってU I J 創業セミナーを開催します。相当な人数が参加するとの予測を立てていますが、そういったセミナーに参加していただくこともありえます。

東京都内でPRをしていくと思いますが、愛荘町の中にも、向こうに行って創業を考えている人がいるはずで、滋賀県内にたくさんいるはずで、年間トータルで250~300近い創業を支援しているので、東京での開催ですが、愛荘町としてどう周知していくかも考えていただきたい。

東京や大阪などの都市部からのU I J もありますが、町外から愛荘町で創業していただく方の支援、家賃の補助などもあります。住所は向こうにあって、愛荘町で事業を行って雇用を生む。平均4名の雇用を生むという統計が出ています。

東近江市は創業者に対して補助がありますが、東近江市に住んで市税を払っているなど、制約の中で補助を行っています。町外から愛荘町に事業所を移して創業してくれる方には、愛荘町に住んでいないから補助はしないということではなく、家賃補助も含めて支援する制度を設けてもよいと思います。

農業に関して申し上げますと、新規就農支援が含まれていません。昨年まで都道府県の新規青年就農資金がありましたが、昨年11月に私どもの農林事業に移管されました。「上限3,700万円、無利息、12年払い、5年据え置き」という制度があります。

27年度は県北で12件、新規青年就農の実績があります。彦根では果樹園とハウス野菜で3件の新規青年就農の実績があります。JAと一体になっていますが、制度を周知しながら、そういう資金を使って新規就農を増やしていく方法もあると思います。

周知ができていませんが、都道府県が動かなかったためにうちの農林事業部に移管された事業で、推進しているところです。

事務局：彦根で3件というのは市内からか、それとも県内ですか。

長瀬委員：2件が市外です。

事務局：やりたいと思っている人が探して来られるということですか。

長瀬委員：そうです。湖北は農業者が多いです。大津にあって、県が全部持っているのでわれわれにも情報が入ってきます。周知していくことで、KPIの中で年5件できるかどうかは別として、そういった指標が可能なのかと思います。

嶋中委員：第6次産業の推進で愛荘ブランドの確立ですが、愛荘町はヤマモト伝承工芸品のびんてまりで、来年度からふるさと納税制度の商品を選定されるということです。

びん細工手まり保存会と町との関係、観光協会との関係がどうなっているかは知りませんが、町外の人でも楽しみにびんてまりの教室に参加しておられて、県外から来るとも聞いております。

工業品ではないので増産はできません。手作りなので大変だと思いますが、ステキなびんてまりをつくってくれる人をたくさん育てて、10万円を納税してくれた人にはびんてまりをプレゼントする。そういった連携も検討されてはどうでしょうか。

これは愛荘町にしかないものです。びんてまりは「丸く収まる」という縁起物として、結婚式や新築の際のお祝い品にも使われる、とても魅力的な商品です。これにもっと光を当ててはどうですか。

教室をするのは大変だと思いますが、町との連携でびん細工手まりを広げていく。今は愛知川駅でしか買えませんが、大いに活躍してほしいと思っています。びん細工手まりをモチーフにした作品、ストラップやメモ用紙などをつくっていただければ観光にも活用できると思うので、そこをもっと取り組んでいただきたいと思いますと思っていますが、いかがでしょうか。

事務局：びんてまり保存会がありまして、この戦略の中には、後継者の育成という部分は今の段階では触れていませんが、人を育てていく必要があります、そうでなければ伝統工芸品を作り続けることはできないと認識しております。

ふるさと納税ではびんてまりも商品化しています。昨日、偶然ですが、大阪の方がびんてまりを希望されてふるさと納税をしてくれました。全国でふるさと納税が競争のようになっていますが、ふるさと納税を通じてびんてまりの発信もできつつあるので、次年度からはさらに拡大していく予定にしています。

嶋中委員：大いに光を当てていただきたいです。

西村会長：地域の人たちにびんてまりに対して愛着を持っていただく。前回8月にのれんアートという形で、今年のテーマはびんてまりだったので、滋賀銀行愛知川支店ATMの横にも吊っていましたが、地域の方に認識していただくとともに情報を発信していく必要があると思います。その他、ございませんか。

秦副会長：前回の議論で、愛荘町に住んでいる人が仕事で違う地域に出て行かれるという話がありました。大きな事業所もあるので、町内の企業で定期的に懇談会を行って、人材が地元に着着してくれるように、住宅の用意や斡旋などができないかと思っています。

総合戦略について、階層的にきちんと説明していただきましたが、構想の中にメッセージが必要ではないかと思っています。総合計画の理念はありますが、あらゆる場で人を育てる。職場、商工会、高校生との連携とか、観光ボランティア、地域ミュージアム、コミュニティの場、人を呼びこむ環境が整っているのです、愛荘町はあらゆるところで人を育てます、そういうメッセージを発信してほしいと思います。すでにされていますが、皆さんに呼びかけて、協力しながら人と育てていきましょう。理念的ですが、串刺しのところをどこかで表現していただければと思います。

西村会長：情報は発信してなんぼですから、知ることで初めて意識してくれると思います。

北村委員：現在、愛荘町の観光ボランティアは7名しかいません。先日、滋賀県下のボランティアガイドの研修会があり、午前中の研修後に、愛荘町、彦根、豊郷、多賀に分かれてボランティアガイドの現地研修が行われました。愛荘町の場合は、金剛輪寺と上蚊野の古墳公園に行きました。

県下でいくつもコースがある中で、なぜ愛荘町のコースを選ばれたのかとお聞きすると、金剛輪寺に行きたいからと答えると思っていましたが、湖東三山と金剛輪寺はよく知っているので、上蚊野の古墳公園に興味があったということでした。それをお聞きして、あらためて思い知りました。

上蚊野の古墳公園は、春はサクラがとてもきれいで、町内外から大勢、知っている人は来られていますが、全国的には知られてないと思います。サクラは町の花でもあります。花見もできて古墳も見られます。古墳の中に入ることもできるので、観光ツアーの中に入れてもいい

いと思います。

「湖東三山館あいしょう」では毎週日曜日イベントが行われていて、初日は斧磨明神踊りと地元の和太鼓「鼓都」の演奏がありました。地元にながら斧磨明神踊りを久々に見ました。昔から伝わっているものですが、町内でも知らない方がいると思います。

斧磨明神踊りも後継者がいなくなっています。歌い手もいなくなり、踊りながら、歌いながら、解説しながらなので大変だと言われていました。字で続けていくというよりも、地域以外の人でも、歌の好きな人、踊りの好きな人がいたら、一緒に伝えてほしいということでした。斧磨明神踊りも、昔からの伝承工芸として皆さんに知っていただく値打ちがあると思います。

去年は岩倉の方が町の歴史文化博物館のふるさと展に展示をされたのですが、岩倉の矢取地蔵の紙芝居をDVD化(アニメ)して、ストラップもつくって湖東三山館で販売しています。岩倉の有志の方ですが、制作した方が、要望があれば、金剛輪寺や斧磨明神踊りを紙芝居としてDVD化して、かわいいストラップもつくり、愛荘町のPRができればという話もされています。

実際に岩倉の矢取地蔵のアニメはネットでも動画配信がされており、全国の人たちが見てくれているそうです。そういう動きもあるので、愛荘町を全国に知ってもらおうという意味では、いろんな方面でできることはやっていかれてはどうかと思います。

西村会長：情報を発信することによって来てもらえるということなので、町もいろんなツールを使って発信してください。

事務局：まちじゅうミュージアムということで博物館的なもの、地域それぞれに資源があるので、それを発信していく。町で発信するのは有名どころばかりになりますが、町が発信するだけでなく、隠れた部分を地元の人に知ってもらうことが重要なので、それも含めてやっていきたいと思っています。

北村委員：湖東三山館に来られた方で、むやみに掘るのは難しいですが、ヤマイモを掘り起こすところを見たいという声や、農作物の刈り取り体験があれば親子で参加したいという声もありました。

西村会長：山芋の生産者が高齢化していると聞いています。生産量が決まっていて、お歳暮などで使う以外に使い道がないと聞いていますが、そのあたりはどうですか。

事務局：現在、確かに需要と供給のバランスが図れていません。新しい人をつくるという中で地域おこし協力隊の拡充を目指しています。ヤマイモで募集をかけて、ヤマイモを使った愛荘ブランドの確立を目指していきたい。そういった視点を踏まえて、外部人材を投入する形で担い手を募集していくために今現在、制度設計中です。

西村会長：それでは、時間もありませんので、「ひと」の分野に入っていきたいと思います。ひとの分野について、ご意見をいただければありがたいです。

野村委員：こういう会に出ていつも思うのですが、会議に来られているのは仕事をしている方です。人口の資料が多いのですが、ここに住むことを考えると、町外からここに仕事に来る。愛荘町は小さいので町内での仕事は限られてきます。数的には外に仕事を求める人が多いと思います。人口のことを考えると、仕事も大事ですが、いかにここで生活するか。人を育てていくか。そういうことが戦略的には大事だと思います。

「30歳の成人式」にしても、30歳で結婚したら町外に出て行きます。他のところに住まな

いでここに住んでもらうには、ここで子供を育てたいといかに思わせるか、だと思います。ここで働きたいではなくて、ここで過ごしたい。ここの食べ物を食べたい。ここの空気を吸いたい。ここの人たちとしゃべりたい。ここの学校に通いたい。これが一番、住むことに関しては身近で、計画に必要なものになってくると思います。

保育園の拡充で、大きなものが建っています。つくし保育園に障害者サービスを持ってくるという話がありましたが、新しい保育園には障害者サービスはないのかということです。今、世の中の流れとしては、いろんな人たちが一緒に生活していく中で地域が活性していく。そういう流れの中で、なぜ、新しい保育園ができていのに、わざわざ障害児用の保育園をつくらないといけないのか。

もともとの考え方がおかしくて、つくればいいのではなくて、ここで何をしようとしているのか。小学校に関しても中学校に関しても、ここの中学校に通いたい。通わせたい。ここの小学校に通わせたいと、地元の人たちがどれだけ思っているかが大事です。

家という縛りで考えることが少なくなっています。若い人は自由に住まいを変えていく時代になっているときに、ここを選んでもらえるのは、仕事場に近いというよりも、ここで子供を育てられるか、ここで豊かな生活が送れるかということです。

この計画を見ていると、ベースになる人づくり、これは時間がかかりますが、ベースになる人づくりがないのに、その上にいろんなものを建てても、計画を立てても、結局、外から人が来て、また外に出て行く。観光に関しては、外から人が来て、愛荘町ってすごいねと帰っていかれる。ふるさと納税は、出られた人が、こういうものが欲しいからお金を送ってくれるだけで、ここに愛着があるわけではないです。

素案でガッカリしたのは、あまりにも子供を育てることに対する意識が薄いということです。仕事があれば、お金を稼げればではなくて、地元が生活圏になっている人たちのことを考えた戦略でないと、昼間はにぎやかになるかもしれませんが、夜になったらガラガラになります。そうすると、防犯の力もなくなり、コミュニティもなくなっていくと思うので、戦略のトップに「人育て」が入ってくるべきだと思います。

総合戦略で人口の流出を抑えなければいけない。できれば入ってきてほしい。それを考えるのであれば、仕事やまちづくり、観光資源よりも、最初に「人育て」が入ってこないで成り立たないと思います。

西村会長：他にご意見はありませんか。

秦副会長：前回の議論や、人口のことで町内における東と西の地域的なことや空き家のことが出ていました。空き家バンクを拡充して、政策的に地域を融合する形で、住宅の買い上げや公営住宅を借り上げて、そこに若い世代を誘導して住みたい人に優先的に選んでいただく。借り上げで回転させていけないか、検討してほしいと思います。

長瀬委員：多様な保育サービスの提供ということで、先ほど野村委員が言われたように、子育てがしやすいという面で、SWOT分析では延長保育・一時預かりの充実で待機児童が増加傾向にあるとのことでしたが、待機児童の解消の制度として拡充で大丈夫なのか。待機児童はこれで解消できるのかというところですが、そこはどうですか。

働きやすい環境という面からいくと、待機児童をなくすという方向に行っているわけですね。前回の人口の資料で、愛荘町では待機児童が増加しており、保育所も定員を超過しているとの記載があったと思います。町の弱みを解消するために、延長保育などで待機児童の解消は可能なのか。検証はどうですか。

林 部 長：つくし保育園の整備にあたっては、これからの必要数、ニーズを想定してキャパシティを増やす形で整備しており、整備できればそのあたりの問題は一定クリアできるということです。

長瀬委員：子育てがしやすいという観点からいうと、子育て世代はお金がかかるので、新たな住宅リフォームの制度の創設と書いていますが、リフォームの補助や家賃補助が必要だと思います。期限を切った有効活用で、促進の中に入れてもいいと思います。空き家として住宅用に活用できるのか。事業用として空き店舗を貸してくれるのかどうか。空き家バンクの創設も含めて早急に調査が必要だと思います。

西村会長：最近、地元の中学校在荒れていると聞きます。児童が問題を起こすのは、小学校の教育から問題があって、中学校に行っても歯止めがきかないのだと思います。地元の中学校に行けとは言いませんが、行ってほしいと思っているので、行ってもらえるようなことを教育委員会に考えていただきたい。

最近、近くに私学ができていますが、地元で愛着を持ってもらう意味でも地元の小中学校に通っていただきたい。そのためには魅力のある小学校・中学校づくりが必要です。地域に住む方々に地元の中学校在公立でも魅力があると言ってもらえれば、来てもらえるのではないかと。それは子育てにもなると思いますが、いかがですか。

林 部 長：一定数、少なくない数が地元以外の小学校・中学校に行っているのは聞き及んでいます。それぞれ保護者のお考えもあると思います。その辺の課題を座視しているわけではないと思いますが、現在検討しているところでもう少し時間がかかります。確かに、経費的にも地元の中学校は安く行けますので、魅力ある学校が大切になると思います。

大橋委員：魅力ある地域資源の掘り起こしということで、100人委員会が24年に提言されています。町内の資源の活用にも触れられています。町内をよく知っている方々が策定されているので、簡単にしか見ていないのですが、なるほどという面が多々あります。委員の皆様はご存じないと思うので、簡単な説明と、現状その提言内容がどのように進められているのか、お聞かせいただけますか。

林 部 長：2回、提言があったと思います。1期2年で、第1期の提言と第2期の提言があり、多岐にわたる内容だったと思います。その中で施策としてやるべきことについては、すでに実施しているものもいくつかあります。例えば旧郡役所などについて大きな提言があり、着実に進めています。福祉制度については、愛荘町は県下でも制度的には充実していると思います。職員の専門職の採用なども含めて、かなり進んでいる町だと考えています。

事 務 局：合併以降、平成20年に町の総合計画ということで、10年計画ですが、平成20年から平成25年までが前期になります。100人委員会は第1期の村西町長の時代なので、後期計画の中にはそういう部分も組み込まれていると理解しています。

大橋委員：この提言の中では、地域資源の活用、健康面、地域コミュニティの活性化、ふるさとに対する誇りと愛着の醸成など、具体的な内容を出しています。せっかく100人委員会で提言されているので積極的に活用してはどうかと思います。

正木委員：私は愛知川中学には行かずに県立の中学校に行きました。地元の愛知川が荒れているから行かなかったのではなくて、そのまま高校に行けるので受験しました。確かに最近は荒れていると聞いています。評判が悪く、受験したい人が増えているとも聞きます。

他の中学に行っても、66かまど祭に行ったり、地元の運動会に参加したり、自分の字がいいと思っているので、この会にも参加しました。

もっと愛荘町がよくなってほしいと考えていますが、先ほど野村さんが言われたように、こ

れから就職が始まりますが、愛荘町で仕事ができるのか不安で、たぶんどけないと思います。でも、住みたいとは思っています。この環境がよくて、人との付き合いもあり、愛着もあります。同じ年で出て行く人は、愛荘町ではなくても同じような制度がある町はたくさんあるので、住みたい人が減っているのだと思います。自分の環境や愛着、交通や教育、そういう面で住み続けたいと思う若者が減っているのだと思います。

西村会長：情報として学校が荒れていることを知っておられるということは、それだけひどいのだと思うので、火種が小さいうちに消していただきたいと思います。

野村委員：ひどいところに私の子供が行っていますが、中学校の荒れは周期的なところがあるので、荒れているからたちまち何かしなければいけないという話をしたのではなくて、愛荘町はどういう子供を育てたいのか、というところがまったく見えていないということです。

1年間のカリキュラムがありますが、6年間でどういう子供に育てて卒業させるのか。学校問題もあり、教育目標もあります。「五愛塾講座」もあります。読書推進も言われていますが、読書推進の町であることを教育にどう盛り込んでいるのか。五愛塾講座をどのように盛り込んでいるのか。それが見えてこないということです。

愛荘町は、こういう方針を持っていて他には負けない教育がある。愛荘町の小学校を卒業したらこれだけは他に負けない自信がつく。それがなければ子供たちはここに愛着を持ちません。

荒れていることではなくて、どういう人の生活をつくらうとしているのか。そこがまったく見えていないと思います。それがいろんなところに響いているのではないかと。子供がどう育つかによって親の考え方は変わります。大人目線で物事を考えるよりも、子供がいかに生き生きと地元で生活しているか。子供がどんな食べ物を食べて生き生きと生活しているか。地元で馴染んで土を触っているか。そこを見ないと人は育たないと思います。

北村委員：子供たちが荒れてくるというのは、学校もそうですが、家の環境もあると思います。親御さんに心の余裕がないというか、今は各家族でお年寄りと同居していない世帯もあるので、空き家を活用して高齢者にいろんなことを教えてもらう。若い世代は塾などでお金がかかるので、退職された方で英語や書道などを教えてくれる人がいたら、町がお金を出して教えてもらうなど、地域で子供たちを育てていくのもいいと思います。昔の寺子屋みたいな感じで、空き家には昔の古い建物もありますが、そういったところでほのぼのと子供たちが高齢者に教えてもらうのもいいと思います。難しいこととは思いますが。

町民の方々に愛荘町のことを知ってもらうのは、愛荘町が誕生したときに冊子を全戸配布していますが、今年は町政10周年を迎えますので、10周年を記念して冊子を作成し直して全戸配布してはどうでしょうか。

誕生してから10年間でずいぶん変わったところもあります。滋賀県下でも愛荘町にしか咲いてない花や木のある「愛荘自然観察の森」ができています。冊子を作成して全戸配布し、滋賀県下の道の駅にも置いていただけたら愛荘町を知ってもらえると思います。いかがでしょうか。

西村会長：冊子は予算もありますので、情報ツールとして出せるかどうかご検討ください。

北村委員：愛荘町はどんなところですかと聞かれたときに、これを見たら全部載っているという冊子があればいいと思います。

長瀬委員：出会いの場の創出で、県の素案を見ると「出会いから」という表現があり、出会いから結婚・出産をフォローしていくと出ているので、婚活事業もやってみる価値はあると思います。

前回の会議で出会いの機会がないという意見があったと思います。町がかかわることで安心感もあると思います。町主催か共催かは別にして、事業計画を委託しながら支援をしていくという形で、町に住んでいる男女限定でもよいので、出会いの場を提供することも必要だと思います。

滋賀県も婚活事業を実施しています。彦根で実施して、11月か12月に高島で実施したときは200人を呼んだと聞いています。婚活事業は行政として抵抗があるのかもしれませんが、自分たちで動く必要はなく、事業委託をして支援していくのもいいと思います。

宇山委員：女性の活躍の場づくりと書いていますが、そのためには子育てを充実してもらいたいと思っています。今後つくし保育園が大きくなると思いますが、先生の人材確保は大丈夫なのか、心配しています。今のつくし保育園でも募集をかけていますが、同様に心配しています。子供を一時預かりにお願いしていますが、一時預かりの先生が水曜日と金曜日しかいないので、その日だけにしてほしいとお願いされたこともあります。都合がつけられないので無理にお願いしている状態ですが、そういうことがないようにしていただきたいと思います。

西村会長：次に、「まち」並びにすべてのことに関してご意見をいただきたいと思います。

嶋中委員：全体として何をキーワードに取り組むか。結婚であれば「出会い」というように、キーワードが必要だと思います。

それと、まちになるかはわかりませんが、多文化共生の推進と書かれています。愛荘町にあるサンタナ学園の充実・フォローも必要ではないでしょうか。

外国人がかつては1,300人いた町で、県下では今でも定住率の高い町になっています。住みよい町になればサンタナ学園の生徒数も増え、子供たちが育って町内で活躍してくれることを期待もできます。

17年前からサンタナ学園はあるわけですが、日本語や日本文化に対する理解、日本語教育の充実を図るため、日本語教室で4名のブラジル人の子供にボランティアで教えています。先生ではなくて日本語教室はボランティアですから大変です。就学前の小さい子から16歳までの子供60~70人を預かっています。サンタナ学園を充実させることで外国人の方々も充実した生活を送れるのではないかと。この間も八日市に住んでいた子がサンタナの近くに引っ越してきました、そういったことも念頭に置いていただきたいと思います。

「ひと」に戻りますが、歴史的建造物を活用した交流拠点施設、まちじゅうミュージアム構想ではロケーションの設定。映画のロケーションで『あさが来た』でも八幡堀はよく映りますが、旧郡役所なんかはいいロケーションになると思います。そういった活用をアピールしていけるような施設があればと思います。五個荘であれば近江商人屋敷、豊郷は豊郷小学校がいいロケーションになります。いいロケーション設定をすると注目されたり、映画やドラマの撮影地になったりする可能性もあって、それで注目を浴びることもあるので、そういったことも期待しています。

それと、ふるさとに対する誇りと愛着の醸成、本町固有の自然・文化・風土・歴史等に関する学習の場の提供とありますが、これはどのように提供していくのか、お聞きしたいと思います。

事務局：本町固有の自然・文化・風土・歴史に関しては、様々な発信方法があり、行政が提供するだけではないと認識しています。地域の歴史であれば、地域の人たちが子供たちに教える学習の場を設けていく仕組みづくりが必要ではないかと思っています。博物館でも、岩倉展や集落の歴史に関する展覧会等も実施していますので、そういったことも踏まえて情報提供がで

きると思っています。

現在、観光ボランティアガイドと地域おこし協力隊とが連携し、一般的に知られていないところを歩いて歴史を学ぶ「歴史散歩」というツアーを実施しています。そういった様々な機会を通じて町固有の歴史文化等を学んでいただく場を提供していきたいと思っています。

西村会長：誇りと愛着については、愛知川小学校ではふるさとに関して再認識をされているとのことなので、地域を知ってもらうことが大事だと思います。

田中委員：総合戦略の上にあるのが人口の実現、2060年に2万人を維持するまちづくりをしようということなので、それに対して施策が結びついていて、一貫性を持っていることが大事だと思います。

野村さんが言われたように、昼間人口と夜間人口を分けると、どういう切り口でいくかということになってくると思います。昼間だけ多くてもダメで、考え方としては住んでもらう町が上位になると思います。これだけ盛りだくさんの施策が出てくれば、ある程度はすみ分け、優先順位をつけたうえで実施していくことが大事になると考えます。

冒頭、橋本さんから説明がありましたが、すでに既存の仕組みもたくさんあると思います。そこに新たに同じような仕組みをつくるのは二度手間になるので、既存の仕組みをブラッシュアップして利活用することが大事で、進めるにあたり無駄がないかチェックが必要だと思います。

場については今日初めて見たところで、貴重な意見がいただきました。それぞれ関連する専門家に聞いて、各業界に応じて種々の商品・サービスをお持ちだと思うので、集約して、どういう形で進めていくのがよいのか。各企業や営利団体は独自のサービス・商品があり、業界の垣根を越えて共同でできるものの中にはあると思います。

異業種交流は、今に始まったことではなくて過去から実施しています。滋賀銀行でもお客さまの会がありますが、同じような趣旨・目的で実施しているものがたくさんあるので、乱立すると参加する側はあれもこれもということになります。それぞれ意義があるのでよいのかもかもしれませんが、目的は同じだと思うので交通整理をして、連携して進めていくことが必要だと思います。

西村会長：最後に塚越さん、ひと言お願いします。

塚越委員：初めて出席して、どのように進んできたかを理解しました。私どもはひと、まち、こころとして、「まちづくりは心づくりである。心づくりは人づくりである」という方針のもとで行っておりますので、青年会議所と共同で行っていければと思っています。町を好きになる方が増えれば、町から出ても他県で愛荘町のことをPRしてくれます。それを聞いた方々に愛荘町に来てもらうという考え方もあります。

先ほど寺子屋の話がありましたが、私たちも今、寺子屋の前段階ですが地域教育の活動をしています。彦根市に限りませんが、4大学の学生を新たな地域資源として空き家を利用して寺子屋みたいなことをしていきたいと考えております。

長瀬委員：まちのことで1点だけ、前回の会議で、年をとって不便になったら近くの便利なところに移転する人がいるという話がありました。まちという面ではシニアの方たちが住み続けてくれる町、「住み続けたい愛荘町」が第一目標に書かれているので、シニアの方々の不安、不便、孤立なども含めて、定住施策として大丈夫かどうか、検証が必要だと思います。

買い物弱者が大きな問題になっています。「とくし丸」という移動スーパーが脚光を浴びていますが、とくし丸とタイアップして社会課題という形で推進しているところもあります。

買い物弱者や、不便だから近くの便利なところに移転するという人たちに対して、やさしい施策になっているか、検証する必要があると思います。

秦副会長：施策を進めるにあたり、行政だけではできないし、行政だけがやることでもないので、いろんな方たちの協力を得ながら、進めていくための仕掛けが必要になります。仕掛けとなるのは人だと思います。地域資源もありましたが、一緒に取り組める人が中心になって少しずつ広がっていかないと広がらないと思います。それと同時に、一度に全部はできないので優先的に進め、動かしていけば好循環になってくると思います。そういうことも書けるようであれば書いていただきたいというのが1点と。

もう1点は、愛荘町の10周年の話が出ましたが、歴史的な部分で愛荘町はこうして生まれてきて、これからはこうしていきますというあたりのメッセージを総合戦略の中に盛り込んでいただければと思います。

野村委員：健康寿命の推進にポイント制度はあまり有効ではないと思います。

北村委員：自分の体のことですから。

嶋中委員：誰もが元気でいたい。県内で唯一のアーチェリー場を持つ愛荘町なので、ぜひオリンピックで好成績を収める選手を輩出してください。お願いします。今からでも遅くないと思います。

北村委員：アーチェリー教室を毎年されていますが、受講生が少ないです。子供に最後の試合でインタビューするとオリンピックに出たいと意気込んでいる子供たちもいますので、そういう人たちの人口を増やしていければと思います。

西村会長：時間がまいりましたので、その他についてお願いします。

### (3) その他

#### 「やさしい日本語」研修会

嶋中委員：愛荘町には外国人が700人近くいます。訓練があつて防災無線を流しましたが、外国人にはわからなかったようです。私たちは何とも思わないことでも、言葉が通じない人には脅威になることもあります。広報にしても防災無線にしても、外国人にもわかる文言はどういうものなのか。研修会を12月17日の13時半から役場の2階で開催します。

もう1点、昨日、募金活動の出発式をしましたが、サンタナ学園のクリスマス会を12月19日13時半から町民センターの2階で開催しますので、募金をお願いします。これもみらい創生にかかわると思いますので、よろしくをお願いします。

西村会長：次回の開催について事務局からお願いします。

事務局：今日いただいた意見を反映させて、次回は施策的にも掘り下げた内容に入ることになります。12月21日(月)15時からということでお願いします。

### (4) 閉会

西村会長：本日は大変長時間にわたりありがとうございました。少しずつ先が見えてきていますが、もう少し中に入っていきたいと思いますので、次回12月21日15時からということで、よろしく願いいたします。それでは閉会させていただきたいと思います。

事務局：長時間にわたりありがとうございました。最後に副会長からひと言ごあいさつをお願いします。

秦副会長：本日は、幅広い内容にわたり多様な角度からご意見を賜りましてありがとうございました。この会議も何回かでまとめていくこととなりますが、中身がどんどんよくなってきています

ので、皆さんの協力を得て進めていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

事務局：ありがとうございました。